

研究員 の眼

年末ジャンボ 今年の狙い目は? ドキドキ感とワクワク感の味わい方

保険研究部 主席研究員 篠原 拓也
(03)3512-1823 tshino@nli-research.co.jp

年末の風物詩の1つとしてジャンボ宝くじはすっかり定着している。この一年、新型コロナの感染拡大防止と社会経済活動の再開を両立させていくなかで、気がつけばもう年の瀬、という感覚の人も多いのではないだろうか。年末ジャンボ宝くじは、そんな年の瀬のレクリエーションとして、価値が高まっているといえるだろう。

今年も最高当せん金は1等前後賞合わせて10億円。昨年までと同様の一攫千金のチャンスだ。しかし、細かい点では変更となった部分もある。変更された点をみながら、今年はどう狙うべきか、考えてみよう。

◇ ジャンボは「一攫千金を狙いつつ1万円も当てたい」

年末ジャンボ宝くじには、「年末ジャンボ」と「年末ジャンボミニ」の2つがある。「1等前後賞合わせて10億円」のうたい文句で販売されるのは、年末ジャンボだ。これに対して、年末ジャンボミニの当せん金の最高額は、1等前後賞合わせて5000万円にとどまる。

年末ジャンボについては、宝くじ1枚あたりの各賞の当せん金や当せん確率が、一昨年、昨年と全く同じ内容となっている。3年連続で同じ内容ということで、この宝くじは一種の完成形に達している、ということなのかもしれない。1等7億円は、1ユニット（2000万枚）あたり1本出る。1枚300円に対する当せん金の平均受取額は、149.995円だ。

じつは、年末ジャンボは、一昨年の宝くじで、5等1万円の当せん本数が大幅に増やされた。1万円以上の当せん金が当たるくじの本数は、1ユニットあたり6万2246本となっている。これは平均的にいうと、1枚300円のくじを322枚買ったなら、その中に1万円以上の当たりが1枚含まれていること

を意味する。ただし、くじを 322 枚買うためには 9 万 6600 円が必要なので、平均的には持ち出しとなる。年末ジャンボは「一攫千金狙いを中心に据えながら、当せん金 1 万円も当てたい」という願いにかなっている。

◇ 100 万円以上の当せんに照準を合わせたミニ

一方、年末ジャンボミニはどうか。当せん金の最高額は 1 等前後賞合わせて 5000 万円にとどまる。

年末ジャンボミニは、2 等以下について、昨年のものから大きな変更が行われている。

(年末ジャンボミニの主な変更点)

- (1) 当せん金 100 万円の 2 等（当せん本数は、1 ユニット（1000 万枚）あたり 700 本）を新設
- (2) 当せん金 5 万円と 1 万円の等級（昨年の 2 等と 3 等）を無くした
(1 枚 300 円に対する当せん金の平均受取額は、150 円のまま変わらず)

つまり、今年の宝くじでは、当せん金 5 万円や 1 万円の等級をすべて 100 万円の当せん金に組み替えた形となっている。当せん金 100 万円の狙いに、大きくシフトした格好だ。

これにより、1 ユニット（1000 万枚）あたり、100 万円以上が当たるくじの本数は、昨年の 12 本から、今年は 712 本へと大幅に増加する。100 万円以上の当せん確率は、年末ジャンボの 30 倍以上にもなる。（年末ジャンボは、1000 万枚あたり 23.5 本の当せん。） 億円単位の高額当せんの夢は、年末ジャンボにまかせて、年末ジャンボミニは 100 万円以上の当せんに照準を合わせたものといえる。

これは平均的にいうと、1 枚 300 円のくじを 1 万 4045 枚買ったなら、その中に 100 万円以上の当たりが 1 枚含まれていることを意味する。ただし、くじを 1 万 4045 枚買うためには 421 万 3500 円が必要なため、平均的には持ち出しとなる。

年末ジャンボミニは当せん金の最高額は 5000 万円と低いが、100 万円以上が当たる確率が高く設定されている。「100 万円以上の当せんの確率を高めたい」という期待に応える内容となっており、なかなか魅力的といえるだろう。

◇ ドキドキ感とワクワク感をどう味わうか

まとめると、今年の年末ジャンボ宝くじには、「一攫千金狙いを中心に据えながら、当せん金 1 万円も当てたい」という年末ジャンボと、「100 万円以上の当せんの確率を高めたい」という年末ジャンボミニの、2 種類の宝くじが用意されているということだ。

この2種類の宝くじに対して、いろいろな買い方が考えられる。

「年末ジャンボを連番で3枚だけ買って10億円を目指す」といった、一心不乱に頂点だけを目指す買い方は、シンプルでとても潔いといえるだろう。

「どうせ、そう簡単に高額当せんなんて起こらないから、年末ジャンボミニを〇〇枚だけ買って、100万円に狙いを絞ろう」という買い方は、今年のジャンボミニの変更内容を熟知しており、非常にクレバーといえるかもしれない。

「今年は、××という方針のもとで、年末ジャンボを◇◇枚、年末ジャンボミニを△△枚買うことにした」と、買い揃えのための自分なりの方針を編み出してみるのもよいだろう。

くじの買い方は人それぞれだ。これが正解といえるものはない。ただ、このようにいろいろ考えてくじを買うところから、すでに宝くじの楽しさは始まっているといえる。

今年の宝くじの発売期間は12月23日までで、時間はまだたっぷりある。くじを買ったあとは、抽せん日（大晦日）まで、いろいろ夢想して、ドキドキ感やワクワク感を存分に味わう。そうすることで、慌ただしい年の瀬を楽しく過ごすことができれば、すでに宝くじの効用を十分に得たことになるだろう。